

関西における旧制女学校による  
学校登山のはじまり

赤 坂 美 月

神戸学院経済学論集

第56巻 第4号 抜刷

令和7年3月発行

# 関西における旧制女学校による 学校登山のはじまり

赤 坂 美 月

## I. はじめに

明治33（1900）年、兵庫県においてはじめての公立高等女学校が設立され、兵庫県高等女学校と称した。場所は下山手通5丁目とされている。明治34（1901）年4月、兵庫県立高等女学校（現県立神戸高等学校）と改称している<sup>1)</sup>。神戸市中央区下山手通5丁目、現在の兵庫県庁1号館東側に同校跡地の碑があるが、すぐ近くの交差点に立ってみた。北側にはそう高くは感じられない山の姿をみることが出来る。いつも女子生徒たちはこの山を眺めていたのだろうかと思う。

そして、明治38（1905）年5月、創立記念式後、鶴越（神戸市兵庫区）より<sup>(1)</sup>鳥原水源池（神戸市兵庫区）へ遠足が行われている。同年10月、鷹取山（神戸市長田区）へ遠足が行われている<sup>2)</sup>。当時の女子生徒たちが袴姿で並び歩く姿

---

### （1）鳥原水源池

神戸市水道局「貯水池」によれば、鳥原（からすはら）貯水池は、新湊川水系の石井川・鳥原川及び天王谷川を水源とし、神戸水道創設時の水道施設として布引貯水池に続いて建造され、明治38（1905）年に完成した。ダムの正式名称は立ヶ畑堰堤、所在地は神戸市兵庫区千鳥町3丁目とある。

### （2）鷹取山

田辺真人編「ながたの民話」長田区役所（1983：p.20）によれば、高取山は古くは鷹取山とも書かれ、多くの鷹がその山に住んでいたことによるともいわれている。海拔321メートル、長田で一番高い山とされている。

関西における旧制女学校による学校登山のはじまり

が目に浮かんでくる。

南にあるポートアイランドとをつなぐ神戸大橋から北側を眺めてみると、六甲山系が東西に連なって存在感を示している。今日、兵庫県内に住む人はもちろん、他県からも多くの人々が訪れてくる状況にある。南には海があり、山と海に囲まれた現在の神戸市中央区には、かつて多くの学校教育がはじまったようである。

人はなぜ山に登るのか。それを明治・大正期にはじまったとされる関西の旧制女学校による学校登山とそれに関わった人々の登山への考え・思いに求めた。それは、当時の登山実施の目的にあるが、特に、はじめて登山を実施しようと考えた学校関係者の考えということになる。また、はじめて登山を経験した女子生徒は、何を思いどのような印象をもったのかにも関心をもった。女子生徒たちが体験した登山への理解・純粋な思いこそ、この回答になるのではないかと考えた。学校登山は教育としての登山である。そして、身体運動の一つである。当時の校長や担当教師はどういった女子の育成を考え、登山を実施したのか。いち早く登山を実施した学校には登山に関する情報がすでに入っていたことが考えられる。

そうした学校登山のはじまりについて確認していくなかで、井村による「わが国における野外教育の源流を探る」に参考とする内容があった。井村によれば、「わが国における現代の野外教育の主流に通じるキャンプ、林間学校、学校登山の起源についてまとめると、1889（明治22）年の長野県尋常師範学校の白根・浅間登山が近代における源流といえる。また、その内容は、「青少年の野外教育の充実について」に示された定義や目標と類似したものであり、現在わが国で実施されている自然体験活動を伴う修学旅行や遠足（旅行）・集団宿泊的行事に比較して遜色ない内容であった。名所・旧跡を尋ね、合わせてその地域の自然を体験するような活動が現在増加しつつあるが、そのはじまりにおいても同様な試みがなされていたのである」とされている<sup>3)</sup>。

日本女性の登山については、坂倉、梅野による『日本女性登山史』にまとめ

られている。「女人禁制」と女性の登山、近代登山の黎明、近代登山黎明期の女性登山家たち、学校登山等がその内容である。日本における登山が「信仰登山あるいは測量などのための登山から近代スポーツ登山へ発展するにあたって、学校登山の果たした役割」は大きかった、女子の学校登山については、「明治30年代つまり20世紀の初頭」にはじまり、「時期的にも近代登山史が形成されていくうえでかなり早いもの」であり、大正期には「女学校が各地に創立され登山も活発になっていった」とされている<sup>4)</sup>。そして、登山の目的については、「心身を鍛えることを目指しておこなわれ、近代登山に通じるものがあった」ということである。

また、「記録として確認できる女性の学校登山の最初のもの」は、明治35（1902）年に実施された、長野市立長野高等女学校（現長野県長野西高等学校）の戸隠山登山とされている。その4年後の明治39（1906）年、兵庫県明石女子師範学校、東京府立第一高等女学校、この長野市立長野高等女学校の3校が富士山登山を実施している<sup>5)</sup>が、そのインパクトは非常に強い。

そこで、明治・大正期、関西における旧制女学校による学校登山のはじまりについてまとめる。どのような目的で登山を実施したのか。近代登山がはじまり普及していこうとするなかで、学校登山を主導した人物、登山を経験した生徒たち、それら人々のつながりひろがりが多いの登山愛好者をつくり登山を定着させていったきっかけの一つと考えられる。なお、引用文の漢字については旧字体を新字体に改めた。

今日、多くの女性たちがアクティブに山に出かけている。アルピニスト・クライマーといわれる人々から一般市民の登山愛好者まで、日本のみならず世界各地を訪れる人もいる。登山に何を求めているのか。何かを求めるために登山に行くのか。また、登山から何かを得たのか。さまざまな回答が聞こえてきそうである。これまで数知れず登山を愛好した女性たちを惹きつけてやまない登山について考えてみる。

## II. 女子生徒による学校登山はじまりの背景

### 1. 六甲山系登山のはじまり

関西における女子生徒による学校登山のはじまりを確認するにおいて、六甲山系は近代登山がいち早く行われていた山の一つであるとされることから、六甲山系のなかでも神戸市からの登山のきっかけとその内容を確認した。「日本山岳会100年のあゆみ」には、「山登りそれ自体を楽しむという、いわゆる近代登山の精神が移入されたのは明治中葉以降<sup>6)</sup>」とされている。

#### 1) 六甲山系登山の概要

神戸市は、神戸市、田辺他によれば、明治22（1889）年、市制町村制が施行され、「神戸区に葺合村、荒田村を合併して」誕生した。神戸市域は「現在の中央区と兵庫区の一部で、面積は約21km<sup>2</sup>」であった。「その後、周辺の町村との合併により徐々に拡大」したが、「第二次世界大戦終戦時の神戸市域はまだ六甲山地の南側に限られて」いた。「このときの人口は約13万5000人」とされている<sup>7)8)</sup>。

六甲山は、神戸市によれば、「東西約30キロメートルにわたって神戸市を含む阪神間の市街地に隣接している山系」とある<sup>9)</sup>。六甲山系には個別の名前の山がいくつもある。

登山については、神戸市による「「神戸」と「登山」の関係」に、「近現代の登山文化は、神戸で欧米人がもたらしたという説」がある。「明治に入ってから、欧米人を中心に登山グループが誕生し、神戸の人々も登山を行うようになった。そして、「早朝から山へ登り、軽く朝食を摂る人、体操をする人、神社に手を合わせる人など、このような活動を「毎日登山」と呼び、日課とする人々が神戸で1万人もいたと言われて」とある<sup>10)</sup>。現在もこのような光景を目にする毎日登山である。

神戸市による「六甲山の歴史と現状」というものもみられる。「江戸時代には、六甲山の荒廃によって、土砂災害を頻発させることになり、様々な人々の

関わりの結果、明治初期には荒廃に至った歴史を持つ山」とある。そして、明治以降について、防災に向けた取組み、植林の取組み、六甲山におけるレクリエーション動向、六甲山と暮らしとの関わりとしてまとめられている。六甲山におけるレクリエーション動向には、「神戸開港後、レクリエーションの場として発展した六甲山は現在も多くの来訪者で賑わう」とある。そのなかに「明治6年：近代登山開始」、「明治28年：グループによる道路等整備」がみられる<sup>11)</sup>。

落合は、1970年に「神戸背山登山史」をまとめている。「初期」としたものでは、六甲山の開発、外人による背山開発および登山、市民による背山開発および登山とされている<sup>12)</sup>。

棚田は、1976年に『居留外国人による神戸スポーツ草創史』をまとめている。そのなかで「神戸における外国人によるスポーツの起源というものを年代順に」たどると、「まず、KRACの活動、次に、A・H・グループや、W・J・ロビンソンの尽力で発足したゴルフクラブがあり、そして、W・ウェストンやH・E・ドント、J・P・ワーレンの登山活動となり、そこに三つの大きな系譜を見ることができる」。そして、「これらはおのおの単独に発生し活動したのではなく、年代的にも相互に関連し流動的に変化しながら、スポーツの意図や組織を確立していったように思われる。そしてこれらはすべて日本における活動の先覚的存在となり、比較的早い時期に神戸の日本人に伝わっている」とされている<sup>13)</sup>。これらを六甲山系登山の手掛かりとしてそれら流れを確認していった。

## 2) 登った人物・学校・登山組織

### (1) 登山のはじまり

先に取り上げた「六甲山の歴史と現状」にある「明治6年：近代登山開始」には、「3人の外国人がピッケルなどを用いて六甲山に登ったことが、最初の近代登山として記録に残っている」とある<sup>14)</sup>。この3人の外国人について、忽

関西における旧制女学校による学校登山のはじまり

那によれば、イギリス人W・ガウランド、アーネスト・サトウ、アトキンソンで、高岡要の名前もみられるが「裏付けが難しい記録」とされている<sup>15)</sup>。

次に、中村によれば、明治27(1894)年夏、イギリス人H・E・ドントが、アメリカのヴァキューム・オイル社の日本総支配人として神戸に来ている。そして、その年の「9月6日、六甲山」登山を行った。明治28(1895)年には明神ヶ岳等に登っている<sup>16)</sup> ようであるが、明治29(1896)年夏帰国とされている<sup>17)</sup>。ドントについては、後にも取り上げる。

次に、先に取り上げた「明治28年：グルームによる道路等整備」であるが、明治28(1895)年にイギリス人A・H(アーサー・ヘスケス)・グルームによる「別荘建設を契機として、山上は道路などの基盤整備やホテルの開業が進んだ」とある<sup>18)</sup>。高木によれば、グルームは、長崎のグラバー商会に勤め、明治元(1868)年、神戸支店開設のために神戸に来ている。明治4(1871)年、モーリヤン・ハイマン商会の共同出資者となり、「明治16(1883)年」に横浜へ進出も約10年後神戸に帰ったとされている<sup>19)</sup>。

この時の自宅について棚田によれば、「番頭の能登の持家であった当時三角帳場<sup>(3)</sup>の西2軒目に和洋2棟の2階屋を建て、……ここから六甲山の別荘に出かけた」ということである。また、グルームの別荘は六甲山の三国池近くとされ、「3人曳きの人力車に乗って布引街道から青谷の急坂を下って五毛天神前で下車」。そこから「特別仕立ての横田与吉の駕籠に乗って」登っていった。そして、「三国池の周辺は紙屑一つない潔癖さで整備し」とされている<sup>20)</sup>。『神戸一

---

### (3) 三角帳場

神戸市立中央図書館による「KOBEの本棚―神戸ふるさと文庫だより―第67号(2011)」にある「ランダム・ウォーク・イン・コウベ67 人力車で有馬へ」によれば、『神戸開港三十年史』には、神戸に人力車が現れたのは明治3(1870)年6月、明治34(1901)年には市内に4465台。そして、人力車の客待ち駐車場のことを「帳場」といい、かつては市内各所にあった。特に有名なのが「三角帳場」で、場所は三宮の東門街を北上し山手幹線へ出る手前、市電「中山手1丁目」の停留所近くとある。

中遠足部・神戸高校山岳部史』にも、グループが別荘を建てて以降、「現校舎（神戸市灘区域の下通1丁目5番1号：筆者）のすぐ東の五毛から柚谷を通り、摩耶山の東から山荘へ通ずる登山道が開かれるようになった。外国人達は柚谷道<sup>(4)</sup>を駕籠でよく登ったという。当時五毛には駕籠屋があった」とされている<sup>21)</sup>。

棚田は、明治30（1897）年頃になると、「神戸に居留する外国人は毎朝布引<sup>(5)</sup>の茶店あたりまで登山をすることを習慣とするようになっていた」としている。それは「居留地から山手方面特に北野の台地に居住する外国人達が、故郷ですでに身につけた山野跋涉と狩猟の楽しさを求め、この布引の滝を訪れた」というものである。このように、居留外国人は六甲山の三国池、布引と登山をはじめたようである。そして棚田は、グループが別荘を建て、明治34（1901）年にゴルフ場をつくり（明治36（1903）年、神戸ゴルフ倶楽部創立<sup>22)</sup>）、<sup>16</sup>六甲市長、の尊称を与えられる働きを続けるとともに、次第に内外人に勧誘して山上の別荘地帯を広めたことが、彼らの登山活動を布引から山上、そして西六甲、摩耶、再度の連なる山なみを中心とした活動に拡大させていった」とされている。グループは大正7（1918）年1月に亡くなっているが、自宅は中山手2丁目とある<sup>23)</sup>。

## (2) 兵庫県神戸尋常中学校が登山実施（明治30年）

### (4) 柚谷道

棚田真輔他による『プレイランド六甲山史』（p.29）にも、神戸の居留外国人が六甲山に登る道筋として最も利用した道である。灘区の五毛から都賀川に沿って柚谷に登るコースで、摩耶山の東側を通り、柚谷峠に至る。グループも駕籠に乗りこの道を通して山上にある別荘へ行ったといわれているとされている。

### (5) 布引の茶店

令和4年度 神戸文書館 企画展「布引―景勝地から遊園地、テーマ型都市公園へ―2 布引遊園地」によれば、神戸開港後、当時外国人による開発を阻止し、布引を遊園地として整備しようとした有志「花園社中」と呼ばれた集団が、滝周辺の山道を整備し、朱塗橋を架け、茶店などが軒を並べるなど人工の手入れを施し、「布引遊園」とした。整備後の遊園地は、珍しさも加わり、布引の滝に涼を求める人々で賑わったとされている。

関西における旧制女学校による学校登山のはじまり

明治29（1896）年、神戸市葺合村（現在の神戸市中央区）、新生田川<sup>(6)</sup>の西岸にて兵庫県神戸尋常中学校（現県立神戸高等学校）が開校している。初代校長は鶴崎久米一（明治29年－大正12（1923）年）である。生徒は2年級40名1学級、1年級105名2学級とある。明治34（1901）年、兵庫県立神戸中学校、明治40（1907）年、兵庫県立第一神戸中学校と改称している<sup>24)</sup>。

同校の登山については、『神戸一中遠足部・神戸高校山岳部史』を確認した<sup>25)</sup>。開校の年の11月、「体育奨励のため、野球会と蹴鞠会を合わせた、教職員と生徒からなる校友会が組織」された。そして、翌明治30（1897）年2月、2年級40名は住吉、1年級1組は再度山、2組は摩耶山、3組は和田岬方面に「1日修学旅行」を実施している。そして、「近郊への1日旅行、今でいう遠足」は、明治45（1912）年まで「毎年1ないし2～3回」行われ、行先は先の他に、須磨、六甲山、鷹取山、烏原、甲山等とある。

明治42（1909）年には、遠足部が発足している。遠足部創設の目的は「質実剛健自重自治の気風を養成して校風の発揚を期す」、「体力殊に脚力を養成す」、「精神を爽快ならしめ勉学を助くる」の3つがあげられている。この遠足部は、明治41（1908）年に明示された「質素剛健」「自重自治」の4綱領の実践の場として設けられたとされている。

この遠足部設立発起人の一人とされる第11回生矢内原忠雄さん（卒業年：明治43年）は、「遠足部の設置」として記しているが、そのなかに次のような内容がみられる。一部抜粋する。

---

#### （6） 新生田川

神戸市「フラワーロードは昔、生田川だった」によれば、江戸時代末期から明治初期の生田川は川幅80～100m程度。当時、通常の水量はわずかであるが、少しの大雨でたちまち氾濫し、その度に多量の土砂を流出して、港や居留地付近に被害をもたらしていた。そして、居留地側からこの川の改修を強く要望され、明治政府も放置することが出来ず、付替工事を行うことになった。工事は明治4（1871）年3月から行われ、わずか3ヶ月間で幅約18m、深さ4.5m。延長1.8mの河川が完成したとある。

他の運動に有りては往々選手練習のために他の者は迷惑を感ずるが如き事無きにしも非れども、本部に有りては然ることなし。上なるも下なるも、兄も弟もすべて神中の寵児、全員相よりて一団となり助けつ助けられつ、手を取り肩を擁して共に歌いつ笑いつ、楽しき一日を野外に過して帰途につけば夕陽將に没せむ・・・実に我等のグラウンドは広大なり。・・・疲れたる脳を休め新しき精力を得て鋭氣百倍更に勉学に力め、且つ耐久の体力殊に脚力を練れ。（『校友会誌18号』明治42年12月）

遠足部のあり方への感想と思われるが、今日における部活動においても同様の課題があると思われる。

### (3) 兵庫県立高等女学校が登山実施（明治38年）

ここでは、明治38（1905）年、兵庫県立高等女学校が登山を行った頃以降のことである。善助茶屋跡を保存する会による「毎日登山発祥の地 善助茶屋」によれば、昭和53（1978）年、「毎日登山発祥の地 善助茶屋跡」<sup>(7)</sup>の碑が建設されている。その裏面にある「いわれ」には、「毎日登山はこの地から生まれた。明治38年（1905）頃在神外人が北野から範多坂<sup>(8)</sup>を登ってここ善助茶屋にサインブックを置いて署名する習わしをつけた。元町、栄町及び海岸通の商社の人達がこれに倣って登りだしたのが神戸市民の毎日登山の始まり」とある。そして、「大正初期から昭和10年頃までが最盛期」ともされている。また、同資料にある山下道雄さんによる「善助茶屋と市背山登山会」には、明治33（1900）年3

---

### (7) 毎日登山発祥の地 善助茶屋跡

神戸市立中央図書館による「KOBEの本棚－神戸ふるさと文庫だより－ 第58号（2008）」にある「ランダム・ウォーク・イン・コウベ58 再度山」によれば、再度山の大龍寺から登山道を少し南へ下ると、「毎日登山発祥の地、善助茶屋跡」と刻まれた石碑に出会うとある。

### (8) 範多坂

神戸市立王子動物園「重要文化財 旧ハンター住宅」によれば、この建造物は、もと神戸市中央区北野町3丁目にあったものということで、この下側にハンター坂がある。

関西における旧制女学校による学校登山のはじまり

月、布引水源地<sup>(9)</sup>の竣工があり、「吉岡善助は水源地の雨水測量及び山地監視人として、ここに山小舎を建てて定住した。その後、市背山へ散策をはじめた外国人たちは、その居住区の関係からハンター坂を経て再度山へ登る道筋にあるこの小舎に立寄って休憩するように」になったということである<sup>26)</sup>。

棚田によれば、大阪鉄工所（のちの日立造船所）を創立したイギリス人 E・H・ハンター<sup>27)</sup>の「旧邸のあった北野町3丁目の山麓の横手にある山道は、再度山に抜ける道であるが、その道が外人専用の登山路の観を呈していた」とされている<sup>28)</sup>。

そして、明治38（1905）年、兵庫県立高等女学校が登山を実施している。同校については後にも取り上げる。師範学校<sup>(10)</sup>の登山実施はどうであったのか。明治34（1901）年に兵庫県御影師範学校となった同校では、棚田他によれば、明治40（1907）年秋、400名が秋季遠足を行っている。4年生は大阪、3年生は鷹取、2年生は須磨寺、1年生は六甲山とある<sup>29)</sup>。

次に、先に取り上げたドーントによる登山である。中村によれば、ドーントは、明治37（1904）年、再び神戸に来ていた<sup>30)</sup>。棚田他によれば、背山登山において、「外国人先蹤者の第一人者は H. E. ドーントで、ゴルフ狂・山狂として外国人仲間のうちでも有名」とされ、「彼に形影あい添うように常に活動を共にしたのが“鉄脚の人”と呼ばれた J. P. ワーレン」とされている。「11月末

---

#### (9) 布引水源地

神戸市水道局「貯水池」によれば、布引貯水池は、生田川水系の布引谷川を水源とし、神戸水道創設時の水道施設として建造され、明治33（1900）年に完成した。ダムの正式名称は布引五本松堰堤、所在地は神戸市中央区葺合町とある。他に千苅（せんがり）貯水池がある。

#### (10) 兵庫県における師範学校

神戸大学「発達科学部の前身（1874年～）」によれば、兵庫県における師範教育は、明治7（1874）年に設立された兵庫県師範伝習所に始まる。その後、明治33（1900）年、兵庫県師範学校は兵庫県第一師範学校と改められ、姫路に兵庫県第二師範学校が設立。これらの師範学校は明治34（1901）年、それぞれ兵庫県御影師範学校、兵庫県姫路師範学校となり、明治35（1902）年に設立の兵庫県明石女子師範学校と合わせて「三師範学校」の体制が確立したとされている。

になるとKGC（神戸ゴルフ倶楽部：筆者）のゴルフコースは雪や霧のため春まで閉鎖」されることから、「閉鎖の期間山歩きに打ち込む連中が生まれ」、これらの活動はドントが「KGCに入会した明治37（1904）年以降であり、恐らく明治38年頃からだと思われる」とされている<sup>31)</sup>。

次に、外国人の登山組織MGKの発足である。落合によれば、明治43（1910）年、「ドントがはじめて登山会員を募集し」、大正4（1915）年、「登山雑誌「INAKA」（英文）を創刊（大正13年18巻をもって終刊）。大いに登山思想の普及につとめるところがあった。これには外人のみならず、日本人会員も少くなかった」とされている<sup>32)</sup>。棚田他によれば、この登山組織は「The Mountain Goats of Kobe (MGK)」であり、発足した時期は、「明治40年以降であることは確かであるが正確な年月規約、役員名簿等については不明」とされている<sup>33)</sup>。ドントの自宅は、中村によれば、明治38（1905）年は中山手通3丁目、明治40（1907）年から神戸を離れるまでは山本通2丁目ということである<sup>34)</sup>。

次に、J・P・ワーレンによる登山道整備と明治43（1910）年の塚本永堯による神戸草鞋会結成である。棚田によれば、ワーレンは、明治41（1908）年、「毎朝登る山並みの補修を私費で行ない、善助茶屋から範多坂へ、錨山から城ヶ口への再度山の登山路を整備した。これに感動した塚本永堯が<sup>(11)</sup>神戸草鞋会、を発足させて早朝登山を実施し、登山路の整備をはじめ日本人に早朝登山熱を推進させた」とされている<sup>35)</sup>。先に取り上げた山下道雄さんも神戸草鞋会について取り上げているが、昭和43（1910）年11月に発足、「日本人による登山会

---

#### (11) 神戸草鞋会

- ・棚田真輔他による『プレイランド六甲山史』（pp. 170-189）によれば、明治43（1910）年11月、神戸草鞋会創立。事務所は神戸市中山手通6丁目8番。大正2（1913）年10月、神戸徒歩会（KWS: The Kobe Walking Society）と改称、機関誌「ベデスツリヤン」発行。昭和7（1932）年、関西徒歩会と改称とされている。
- ・神戸市民山の会 ハイキング案内'2023には、神戸市民山の会規約がみられ、「神戸市民山の会は、登山を通じ、健康づくりと愛山緑化精神の普及・向上を図ることを目的とします」とされている。そして、保久良山・一王山・摩耶山・布引山・再度山・鳥原・菊水山・からと・高取山・旗振山・雌岡山の11山筋で組織とある。

関西における旧制女学校による学校登山のはじまり

として多くの会員を集めて活躍をはじめた」とされている<sup>36)</sup>。

以上であるが、高木は『毎日登山発祥の地 善助茶屋』から「善助茶屋の常連」に関するところを取り上げているが、「シェール道」に名を残すH・シェール、ドッドウェル商会のワーレンなどの名前がある<sup>37)</sup>。また棚田は、H・シェール、B・エブラハム、T・パワーズ3名のKWS（神戸徒歩会）での「活動振りは注目に値する」とされている<sup>38)</sup>。このうちシェールについて、大阪府立清水谷高等女学校同窓会に関わっていたことから、後にも取り上げる。

## 2. 日本における女子生徒による学校登山のはじまり

日本における女子生徒による学校登山のはじまりは、明治35（1902）年の長野市立長野高等女学校による戸隠山登山とされている。同校は、明治29（1896）年、長野町立長野高等女学校開校、明治30（1897）年、長野市立長野高等女学校と改称、明治42（1909）年、長野県立長野高等学校と改称している。初代校長は渡辺敏（明治29年—大正5（1916）年）<sup>39)</sup>である<sup>40)</sup>。

先に取り上げた井村は同資料のなかで、橋詰が明治期における長野県の登山を教育に取り込んだ先駆者の一人として渡辺敏を挙げているとしている。渡辺の登山に対する考え方は、「登山を精神身体の訓練上有益であるとし、子どもが生死の際に立つようなリスクを背負っても、登山が精神修養上必要であると述べ、そのような経験を与えることが、生徒の訓育上必要であると考えていた」（橋詰文彦（2001）近代学校教育における登山の隆盛とその意義：駒ヶ岳登山遭難事故を契機とした山岳との関わり—）とするものである。

また、松沢が渡辺敏の体育思想について研究したとしている。「渡辺は知育偏重を排して、体育を重視し、鍛錬主義の体育を行った」（松沢平一（1983）：信州における明治・大正・昭和を一貫する体育思想の研究：明治期 渡辺敏の体育思想）とするものである。そして井村は、「長野県の学校登山の祖といわれる渡辺の考え方や険路で有名な戸隠山での高等女学校生徒を対象とした登山実践は、現代の「自然環境の中でのストレス的な状況を意図的に作り出し、あ

るいは利用して行われる教育である冒険教育に通じるものがある」とされている<sup>41)</sup>。

国立国会図書館による「本の万華鏡 第18回 登山事始め—近代日本の山と人」には、「学校における登山」としたなかで同校の登山を取り上げているが、渡辺は「明治16（1883）年という早期に白馬岳登頂を果たすといった、登山の世界でも足跡を残す人物でした」（『教育功労者列伝』）とされている<sup>42)</sup>。藤坂によれば、渡辺は、明治8（1875）年、「筑摩県（現長野県）大町村の仁科学校（現大町市立大町西小学校）に校長兼訓導として赴任」し、「1884（明治17）年まで勤め」とされている<sup>43)</sup>ことから、この時の登山と思われる。いち早く登山を実施した高等女学校の校長自身が登山経験者であった。

次に、『日本女性登山史』によれば、明治35（1902）年創立の北海道庁立札幌高等女学校（現北海道札幌北高等学校）<sup>44)</sup>が、明治36（1903）年から「全校で藻岩山登山」をはじめたとされている<sup>45)</sup>。札幌市による「藻岩山の歴史」によれば、藻岩山は「明治時代に札幌を訪れた外国人から、絶好の登山の地として親しまれた。そして「明治末期から小中学生の学校登山にも盛んに利用されるように」なったとされている<sup>46)</sup>。山が多い長野県で女子生徒による学校登山がはじまり、札幌市においても外国人から藻岩山が絶好の登山の地として親しまれたということは印象深い。

### Ⅲ. 女子生徒による学校登山のはじまり

明治・大正期、関西の女子生徒による学校登山について、登山のきっかけ、目的、山の名前と場所を確認していった。女子生徒が登山に取り組むきっかけをつくった人々の働きかけは、その人自身が登山愛好者であったり、登山関係者とのつながりがあったことが考えられる。兵庫県5校、大阪府5校、奈良県1校、滋賀県1校、岐阜県1校の13校を確認し、兵庫県と他県とに区分した。兵庫県における女子生徒による学校登山の行き先は表1にまとめた。

関西における旧制女学校による学校登山のはじまり

表1 兵庫県における女子生徒による学校登山の行き先

兵庫県立高等女学校	神戸女学院
明治38年 烏原水源池	大正6年 釜山, 六甲山,
鷹取山(高取山)	ツエンテークローシング
卒業生の記憶	(トゥエンティクロス)
諏訪山, 再度山, 六甲山	鍋蓋山, 摩耶山, 城ヶ越山(菊水山)
摩耶山, 鷹取山	大正7年 塩ヶ原
大正4年 六甲山, 摩耶山, 再度山	大正8年 再度山, 塩ヶ原
大正10年 再度山	大正12年 諏訪山
神戸市立高等女学校	尼崎市立尼崎高等女学校
明治45年 再度山から塩ヶ原(修法ヶ原)	大正10年 六甲山
鷹取山	
大正2年 烏原谷から鶴越, 再度山から塩ヶ原	
摩耶山, 鷹取山	
大正3年 六甲山	
大正4年 六甲山	
鍋蓋山から塩ヶ原, 布引溪流から塩ヶ原	
諏訪山から塩ヶ原, 釜山から塩ヶ原	

※六甲山系登山のみとしている。

## 1. 兵庫県

### 1) 近くの六甲山系に登った兵庫県立高等女学校

兵庫県立高等女学校の初代校長は永江正直(明治34(1901)年—明治36(1903)年)である。1年93名(他に転入学1名), 2年45名が合格とある。明治35(1902)年5月, 寄宿舎が開かれている。寄宿舎の位置は校内運動場の南とあり「舎生の生活は起床が早朝5時(11月~3月は5時半), 夜9時就寝」とあるが, 諏訪山登山や園遊会夜会等もあった。明治36(1903)年, 第2代篠原辰次郎校長(明治36年—昭和4(1929)年)が着任し, この期は「基礎確立の時代」とされている。明治38(1905)年3月, 第1回卒業式が行われている<sup>47)</sup>。

そして, 明治38(1905)年5月の烏原水源池への遠足となるが, 「記念式後は遠足が運動競技会を実施することが多かった」, 10月の鷹取山への遠足について「春秋各1, 2回遠足を行なった」とされている<sup>48)</sup>。

同校の教育の目的は, 「優秀善美なる日本国民の養成」と「心育」とされている。この目的達成のための要目として, 「自我統一の教育, 叡智の養成, 体験の教育, 社会より見たる礼法の教育, 体育」があげられている。そして, 明

治38（1905）年7月、校訓を制定しているが「第七 進みては適當の運動を力め退きては衛生の法則に従ひ以て体力鍛錬の工夫を為すべし」がみられる<sup>(49)(50)</sup>。

明治41（1908）年3月25日から26日まで「新卒業生中有志の者を集め、滋賀・京都方面に1泊旅行」を実施。「従来の卒業前修学旅行は今年からなくなり、卒業直後に1泊旅行をすることが、大正10年まで続けられた」とある。明治43（1910）年4月、兵庫県立神戸高等女学校と改称している<sup>(51)</sup>。これらからすると登山は遠足とされ別に旅行が実施されていた。

この頃の他の登山を確認出来なかったが、同窓生による記述からその様子をうかがうことができる。一部抜粋する<sup>(52)</sup>。

#### 明治の女学生生活の思い出 6回生 永井（河本）つき

一番楽しまれたのが遠足でしたが、その遠足たるや、広田神社、西宮の戎様、さては明石の農園と、いずこへ行こうと徒歩一点張りで、卒業旅行以外は決して乗物等で行ったことはありませんでした。……寄宿のあった場所は只今の県庁の一部になっている所だったので自然、諏訪山、再度山、六甲山等はそれこそ朝飯前という程よく参りました。

#### 思いで（抄） 8回生 永松（山本）勝子

5年生…たしかこのころから靴をはき出したかと思います。海老茶袴に靴というさっそうとした姿をご想像下さい。それからスポーツらしいことはありませんでしたが、有志のものが休み時間にテニスをするかブランコにのるくらいがせきの山。春秋の遠足は大抵日の丸弁当で山登り。冬は必ず雪中六甲登山がありました。

#### 母校の教育に感謝する事ども（抄） 10回生 高良（和田）とみ

幼年期の身体を鍛えて頂いたことを80余才になってつくづく感謝していることである。テニスやバスケットボールの盛んだったことは勿論だが六甲、

関西における旧制女学校による学校登山のはじまり

摩耶登山遠足、鷹取山へもよく登った。寄宿舎に入った3年生以後毎朝眠い目をこすって全舎生が6時には諏訪山へかけ足で登って、またすぐ7時の朝食迄に飛んで帰って来るのである。雨の日も雪の朝も安藤さつ舎監先生がものもいわずタッタ、タッタと登られる後姿について、舎生の若い心臓は、どの位の鍛錬と意思教育を受けたことか。後に私は自分の足がひるむ時「諏訪山、諏訪山」と口ずさんで、この足で世界中を歩いた有難さをしみじみ思うのである。

大正4（1915）年1月には、生徒を3隊に分けて遠足。1隊は布引より摩耶山裏を経て六甲山、1隊は摩耶山、残りは再度山とあり、「これより寒中の六甲登山。恒例の行事となる」。大正10（1921）年11月24日から28日まで、5年生88名、東京に修学旅行、11月25日、4年以下再度山に遠足とあり、「5年の旅行中、4年以下が1日遠足、または乗り物利用の1日旅行を行なうこと恒例となる」。大正11（1922）年8月1日から11日まで、「休暇中の事業として早起会を実施。早朝集合して、登山、海水浴その他の行事をする」とある。当時、下山手5丁目から女子生徒が六甲山系の登山を行っていたことを確認した。大正14（1925）年、兵庫県立第一神戸高等女学校と改称している<sup>53)</sup>。

そして、昭和2（1927）年4月、校友会に登山遠足部が設けられる。「学校行事の遠足、見学、修学旅行以外に有志の日曜遠足を行ふ」とあり、昭和2・4・6年の富士山登山をはじめ、遠方では叡山、愛宕、笠置、醍醐、高野山、近くでは甲山、六甲、摩耶、しやくなげ、再度、鷹取、鉄拐、鉢伏、太山寺、明石等があげられている。また、『創立三十周年記念誌』に「本校養護の方針」がみられるが、「現状に鑑み、最も適当なる養護の方法としてはまづ以て運動に遊戯に遠足に登山に水泳にその身体を積極的に鍛錬し体操科の使命を果すは勿論、その衛生方面にも十分の顧慮を払ひつゝあり」とある。そして、「本校養護施設」としたなかに「遠足及び登山」がみられるが、「見学と関聯せしむる毎月一回の遠足及び其の他登山等は、本校として恵まれたる地利に負ふとこ

るも多し」とされ<sup>54)</sup>、恵まれたる地利に負ふと六甲山系の麓を思い浮かばせる。

## 2) 富士山に登った兵庫県明石女子師範学校

明治36（1903）年6月、明石市山下町において兵庫県明石女子師範学校が開校された。場所は現在の神戸大学附属小学校・同幼稚園（明石市山下町3-4）である。初代校長は藤堂忠次郎である。明治42（1909）年3月までの6年間、「善美なる校風を樹立して今日隆盛の基を確立せられた」とある。伊賀駒吉郎（教諭兼附属小学校主事）、関口しづこ（教諭兼舎監）、橋本ひさし（教諭兼舎監）、市岡てつ教諭4名の名前がみられる、大西によれば、合格者43名、本科第一部、修業年限3年、全員寄宿舎とある<sup>55)56)57)</sup>。

3年後の明治39（1906）年8月、富士山登山を実施している。

### (1) 藤堂校長について

藤堂校長は、東京女子高等師範学校教諭より当校長に任命とある。はじめての女性教師を養成するための一つとして「活動を標語」としていた。藤堂校長について、二人の教諭による記述からその人物像をうかがい知ることが出来る<sup>58)</sup>。市岡てつ教諭（明治36（1903）年6月－昭和8（1933）年3月）は次の様に語られたとされている。一部抜粋する。

藤堂先生は……大変にまめな方で、いつも何かしら仕事をしてゐるといった様な、実に活動的なお方でした。それから極く器用なお方でした。いつも女でも男と同じ様な仕事が出来ねばならぬといつてはげまして居られました……又旅行がお好きでしたが、その立案も案内も御自分でなさるといふ風で、何でも自ら先にたつてこまごまとしごとをなさる方でした。そして学校ではいつも「活動的」といふ事と「家族的」といふ事を口にして居られました。

もう一人は、富士山登山に同行した窪田八重教諭兼舎監（明治38（1905）年

関西における旧制女学校による学校登山のはじまり

12月－明治44（1911）年4月）である。

校長はすべて躬行実践先づ範を示して全校のものを率ゐられ、長途の旅行等にも校長の参加せられざることなかりき。所信断行しかも部下の教員の会議を重んじ、独断のことなかりき。……要するに藤堂校長の教育の方針施設制度等、全校長が女子に対する同情頗る厚く、女子の自ら卑劣する弊風を矯め、女子の地位の向上の為、品位を高め知能を啓発せしめんが為全く女子の味方として尽瘁せられし処より出でたるものなるを信ず。

その後藤堂校長は、明治42（1909）年3月、新設の奈良女子高等師範学校教授となって去られるとされている<sup>59)</sup>。

## (2) 教育としての富士山登山

明治39（1906）年になぜどのようにして富士山登山を実施したのか。それは『回顧三拾年』にある藤堂校長時代の「教育方針」，「教育の方法」にその要因と思われる記述がみられる<sup>60)</sup>。

藤堂校長の教育方針は、「当時の校友会機関誌「心の玉」に執筆せられた文によつてこれを窺ひ知る事にしよう」とされ、「我が校の主義が、女子の教育者を養成するに存し、其の女子教育者の理想なるもの即ち我校の教育主義を生ずるなり。……」とされている。

第二号では、「本校教育の主義の第一条であると前提して「学識扶植」について述べ、実際に施行しつゝある手段として左の諸点が挙げて居られる」としている。その「三」に校外教授についてのものがある。明治36（1903）年6月、大阪修学旅行が実施されているが、同年9月、全校淡路行を行うとあり「之が実に校外教授の第一回である」とある。

第三号では、教育方針の第二条として「活動を奨励す」として次のように記されている。

「学生として、殊に女子師範校生徒には、活動の第一着手として旅行すべし。旅行は独立心と勇氣とを養ふ最良の手段なり」とし「境遇は人を造り、人は亦境遇を造るから、人間は自ら働くべき境遇に居る様にすべきである。諸子は、自力を以て為し能ふものは努めて之に当る事即ち自治の態度をとるべきである」として、身体的活動、精神的活動を説き、身体的活動とは、体の全力を動作行動に注ぐ事であり、精神的活動とは、精神作用が或一点に集中するの謂で、之はすべて努力の然らしむ所である、……決して受動的なるべからずと切に眞の活動をなさん事を求め

教育の方法は、5項目あげられている。その二つ目に「活動主義、鍛錬主義の教育」がみられるが、「1. 自治的訓練」、 「2. 旅行登山の奨励」とある。藤堂校長は「活動」を標語として「苟も事に当れば体の全力を注ぎて余す所なきが即ち活動である」とされ、「努力の少き精神作用は折角ながら、これを活動とはいはれない」としている。そしてここでも、旅行は「独立心と勇氣とを養ふ最良の手段」とされ、「大和めぐり、東京旅行等、夏期休業を利用しての長途の旅行を毎年行い、或は全国に先んじて女学生団体の富士登山を敢行された事など、皆この努力鍛錬主義の教育より出たものと思はれる」とある。そして、「かくの如くにして心身を努力せしめて、克己の精神を養ひ困苦に耐ふる修養をなし、以て教育者としてその重任に堪ふる人物を養成せんと志されたものと考へる」とされている。

### (3) 富士山登山の様子

明治39（1906）年の富士山登山は、近場での登山を実施したうえでのものであったのか。明治36（1903）年開校から明治39年まで登山に関するものは確認出来なかった。明治37（1904）年7月の第一回海水浴開始、明治39年4月のテニス大会についてのものはみられた。

そして、「七月二十六日から十二日間校長職員二名は生徒の有志団二十六を引率して伊勢大廟、箱根、鎌倉、横須賀、東京地方に修学旅行をなし、富士登

関西における旧制女学校による学校登山のはじまり

山をもした」。別頁にも「東京旅行，富士登山－夏休みを利用して本年度も旅行実施，七月廿六日各学年の有志二十六名及び学校長職員二名（梅村，窪田教諭）付添ひ十二日間東京方面の見学旅行を行ひ，富士登山をも行つた，一行中には卒業生も加はつて居た。富士登山はこれを第一回とする，当時世間驚嘆の事件として新聞紙上にも盛んに記載された」とある。なお，明治39年3月26日，本科第一回卒業式が行われている<sup>61)</sup>。

これらから，東京等旅行と富士山登山の二つを行ったということになる。藤堂校長は，富士山登山に関する情報は事前に入手していたと思われるが，登山実施のきっかけ，実施計画は確認出来なかった。当時としては非常に思い切った決断であったと思われる。引率者も女子生徒も登山経験がなかったのでないかと思われるが，「引率は藤堂校長，梅村喜一郎教諭（明治38（1905）年9月－明治43（1910）年3月）<sup>62)</sup>，前出の窪田八重教諭兼舎監の3名であった。

次に，明治39（1906）年8月14日の大阪朝日新聞神戸附録に，同校の富士山登山に参加した生徒の記事がみられる。この記事をもとに登山の内容・様子を確認した。はじめにある「日にちと内容」は筆者である。



富士登山 女学生の紀行

明石女子師範学校の藤堂校長は同校の出身及び現在学生二十六名と職員二名を率ゐる暑中休暇を利用して東海道の名勝を探り東京を見物して更に帰途富士登山を企て去る五日帰校せるがその一行中に加はりし同校の三年生明石町の内鍛冶屋町井上幸子(十八年)の紀行文中左に富士登山の一節を抄出す

「8月3日 大宮町着、登山開始から五合目泊まで」

翌三日天気快晴にはあらざれども大宮町迄四里の行程を馬車鉄道に走らず中途にて小雨降る、一行皆眉をひそめ只管晴れんことを祈る、大宮町に着す、

## 関西における旧制女学校による学校登山のはじまり

雨なほやまず、雨を侵して登らんと決し身に着くるゴザ、檜笠、金剛杖等を購ひ着物を丈短に着、袴も短くし、足には靴下の上に足袋其の上に草鞋を穿く、荷物としては風呂敷包一箇、これには用意の衣服一枚パン、ジャミ其の他の鑑詰物等四食分を腰につけ、卵を一箇づゝ薬にて包み破損せざるやうになして首にかけ、氷砂糖の包みを腰に下げ、ゴザを着し笠を被りて金剛杖を持ちて上らんとするとき、各自己の姿には気は附かで、人の奇妙なる風のみ目につきて互に笑ふ、用意をなせる中に雨残りなく晴る、

- ・富士宮市「60年前の富士宮」

昭和17年6月1日大宮町と富丘村が合併して、人口約3万2千人の富士宮市が誕生とされている。

- ・富士市「広報ふじ平成10年 富士の民話あれこれ」

馬車鉄道について、明治23年開通。東海道線「鈴川駅（現在の吉原駅：富士市）」から富士宮市の「大宮町」まで通っていた。

明治33年ごろ、駅に「表富士登山口」という看板があって、富士山へ登る人が富士宮まで行くのに利用していた（吉原駅北口でお店を営む稲垣恒男さんのお話）がみられる。

- ・富士宮市「歩く博物館 大宮町鉄道馬車会社発着所の碑」

写真とともに馬車鉄道について紹介されている。

兵庫県明石女子師範学校はこの馬車鉄道を利用したと思われる。

強力に導かれて浅間神社の裏より上り始む、かけすばたといふ処にて昼食をなす、一合目にて小休みして、七合目迄上らん勢ひにて進む、三合目と四合目との間にて日没し、月は甚だ大きく間近に上り、吹く風涼しく四合目に着く、石室はあれども人は見江ず、溜りある水を呑みて元気愈盛に五合目につきて宿る、投宿人室に満ち一行の入る場所なし、人々に譲りを乞ひ、猶入る場所なし、よりて土間へゴザを敷き薄き布団を借りて座して寝に就く

- ・富士宮市「強力－富士登山案内人の軌跡－」展

強力は登山者の荷物を運び道案内をする人のことで、富士山における強力の活動は江戸時代から確認できるとされている。

- ・静岡県富士山世界遺産センター資料「登山ルート：富士宮口登山道（大宮口新道）」

富士宮口登山道は、大宮口新道やカケスバタ道などとも呼ばれますが、明治39年（1906）に開通した登山道になる。

起点は表口（大宮・村山口登山道）と同じく、静岡県富士宮市宮町の富士山本宮浅間大社になるが、そこから村山口方面へは進まずに、万野原新田、山宮、カケスバタを経由して、現在の六合目付近（旧四合目）で大宮・村山口登山道に合流している。つまり六合目から上の区間は同じ登山道ということになるとされている。

#### 「8月4日 登山を開始し頂上へ、そして下山、一合目泊」

一時頃起きて用意をなし三時頃より上る、羊腸の石径腹立たしき迄めぐりにめぐり、八合目に至る頃朝日輝き下方の眺めよく、富士川より沼津のあたり迄も一眸の裡にあり、猶進みて八合目も越えて、胸突八丁といふ処に至る、皆岩より成る、甚だ急にして又甚だ危し、只頼む所の金剛杖によりて上る、こゝを終れば即ち頂上なり、四方の連嶽皆足下にあり、黄金の水、白金の水を掬ひ上げ浅間神社に拝し、記念のスタンプを扇子、又神社の印の押捺を受け石楠花の箸、濱梨の羊羹等を購ひて下る、頂上は氣候平地と異り、秋頃の氣候にて、単衣二枚に襦袢を着して猶少し寒さを感じず、山は軽石様の石よりなれるを以て、下りは足すべりよく、着々歩を進め、五合目にて昼食をなし、一合目に至り雨降り来りてせんかたなく一泊す、

#### 「8月5日 一合目泊から大宮町へ」

小なる仮小屋雨を凌ぐ事能はず、やうやうにして一夜を明し、翌日七時頃雨を侵して下る中途にて雨やみ大宮町に着く頃よく晴れたり

関西における旧制女学校による学校登山のはじまり

この富士山登山に関して、信州大学中央図書館による「書物で繙く登山の歴史3－日本近代登山の始まり－3. 登山と教育」のなかで、「『山岳』3号（明治39（1906）年）には、明石女子師範学校の富士登山について監督者の責任が追及されています」とされている<sup>63</sup>。このことは『日本女性登山史』にも取り上げられている。「校長以下二九名……途中何名もの落伍者があったのに適切な監督や処置をせず、ばらばらのまま行動させたことで「監督者の不注意の責任を問う」という記事が長野や東京の新聞に出た。これにたいして日本山岳会の城数馬氏は『山岳』（一―三）で「注意は勿論必要だが、これで女子登山の将来に悪い影響のないよう望む」とし、大勢の人を連れていく人の資質、つまり経験、研究、準備などを呼び掛けている」とされている<sup>64</sup>。

その後、明治40（1907）年8月、夏期見学職員旅行として、六甲山を含めた14日間の旅行とするものがみられる。

そして、『回顧三拾年』の「校友会各部の変遷」としたものに「運動部」についてものがみられる。「大正十年度より昭和元年度まで」のなかに、大正11（1922）年4月、「運動部に左の六部を置く」として、排球部、庭球部、卓球部、籠球部、競技部、登山部」とある。また、「登山部の如きも或は富士山に或は日本アルプスに実に素晴らしいレコードをもっている」とある<sup>65</sup>。

### 3) 近くの六甲山系に登ったその他学校

ここでは3校を取り上げる。明治45（1912）年、荒田小学校（神戸市兵庫区）を仮校舎として神戸市立高等女学校（現神戸市立六甲アイランド高等学校）<sup>66</sup>が開校された。大正11（1922）年、神戸市立第一高等女学校と改称している<sup>67</sup>。

棚田他によれば、明治45（1912）年4月27日、塩ヶ原に遠足をしたが、「同校では毎年春秋2回程程度の遠足」を実施とされている。その詳細は、「午前8

---

(12) 塩ヶ原

神戸市 神戸の近現代史「六甲山の開発」によれば、塩ヶ原は現在の「修法ヶ原」とある。

時出発、再度山を登りて塩ヶ原に至り、それより山道を布引山背後に出で溪流に沿いて下る。岩はしる速瀬を涉ること10数度、漸くにして布引山に達し、雄瀧雌瀧を見て下山、武徳殿前にて解散」とある。同年11月には鷹取山へ行っている。

大正2（1913）年4月、烏原谷を上りて鶴越に出て鶴越遊園に至る、5月、職員生徒一同再度山方面へ遠足、10月、1年生は再度山を越えて塩ヶ原、2年生は摩耶山、11月、鷹取山。大正3（1914）年2月、有志生徒の登山遠足として六甲山へ行っている。4人の先生と「前日校医の体格検査を経たる者」合わせて総員93名。「薄雪を踏んで堅氷に至る習、女子とて祁寒に暴され、峻険を挙げてこそ、真箇鍛錬の域に至るを得るなれ」とある。大正4（1915）年2月にも、「雪の六甲」、5月には塩ヶ原に遠足とあるが、4・3年は鍋蓋山を経て、2年は布引溪流を上りて、1年は諏訪山、錨山を経てとされている<sup>68)</sup>。

次に、私立神戸女学院は、明治8（1875）年、山本通4丁目に「女学校」を設立。明治27（1894）年、神戸女学院と改称。そして、昭和8（1933）年、西宮市岡田山に移転とある<sup>69)</sup>。私立神港学園高等学校に「神戸女学院創設の地」とする碑がある。同校のホームページにある沿革には、昭和8（1933）年、「神戸区山本通4丁目旧神戸女学院高等女学校跡の校舎に移転」とされている<sup>70)</sup>。

谷他によれば、大正6（1917）年4月、「登山会日 錨山、六甲山、ツエンテークローシング、鍋蓋山、摩耶山、城ヶ越山<sup>(13)</sup>の各方面に出発、十二分の快を蓋し帰院す」とされている。大正7（1918）年5月、塩ヶ原、大正8（1919）年4月、全校生徒一同再山塩原、大正12（1923）年10月、諏訪山への遠足がみられる<sup>71)</sup>。

次に、尼崎市立尼崎高等女学校（現尼崎市立尼崎高等学校）は、大正2（1913）年、尼崎町立実科高等女学校創立、大正8（1919）年、市立尼崎高等

(13) 城ヶ越山

山下道雄による『新しい六甲山』（1962：p.10）によれば、城ヶ越山は今の「菊水山」とされている。

関西における旧制女学校による学校登山のはじまり

女学校と改称している<sup>72)</sup>。『日本女性登山史』によれば、大正10（1921）年、六甲山登山を実施している<sup>73)</sup>。

## 2. 大阪府，奈良県，滋賀県，岐阜県

大阪府の女子生徒による学校登山については、松本による「大正・昭和初期における日本婦人アルカウ会の活動－趣味としての山登り－」（2009）が手掛かりである。この研究は大正3（1914）年設立の日本アルカウ会に併設されるかたちで大正7（1918）年に発足した「日本婦人アルカウ会」の活動についてのものである。「六甲山をはじめ近畿一円の山に登るといった活動を行なっていた女性による団体」とされている。

同組織の発会式（4月3日）は六甲山系の摩耶山上で行われたということで、大阪毎日新聞記事（大正7年4月4日）を取り上げているが、「午前十時までに新在家へ集った婦人会員は十七八歳から二十四五歳の令嬢が三十余人，三十歳前後から四十歳といふ中年の奥様たちが二十余人，令嬢は何れも梅田，清水谷，夕陽丘其他各女学校の出身が半数を占めて」とある。また、「大阪の高等女学校では六甲山などへの遠足が行われており，それを体験した女性たちが，卒業後も遠足に行きたいという希望をもち続けていたと考えられる」とされている<sup>74)</sup>。ここにみられる3校と『日本女性登山史』等から大阪府，奈良県，滋賀県，岐阜県の登山実施の学校を取り上げた。関西における女子生徒による学校登山のはじまりと登山部の結成については表2にまとめた。

表2 関西における女子生徒による学校登山のはじまりと登山部の結成

実施年	学校	登山のはじまり	登山部
明治30	1897 兵庫県神戸尋常中学校	再度山、摩耶山	明治42（1909）年登山部
33	1900 大阪府立清水谷高等女学校	玉手山付近	大正14（1925）年遠足部
35	1902 長野市立長野高等女学校	戸隠山	
36	1903 北海道庁立札幌高等女学校	藻岩山	
38	1905 兵庫県立高等女学校	鳥原水源池	昭和2（1927）年登山遠足部
39	1906 兵庫県明石女子師範学校	富士山	大正11（1922）年登山部
40	1907 兵庫県御影師範学校	鷹取山、六甲山	
44	1911 大阪府立夕陽丘高等女学校	六甲山	大正4（1915）年登山部
45	1912 神戸市立高等女学校	再度山から塩ヶ原	
大正2	1913 大阪府立江戸堀高等女学校	六甲山	
3	1914 滋賀県立彦根高等女学校	伊吹山	
4	1915 奈良女子高等師範学校	富士山	大正2（1913）年遠足部
6	1917 神戸女学院（兵庫県）	釜山、六甲山他	
7	1918 富田女学校（岐阜県）	伊吹山	
8	1919 大阪府立堺高等女学校	信貴山他	
10	1921 尼崎市立尼崎高等女学校	六甲山	
10	1921 大阪府立梅田高等女学校	アルプス	

\*学校登山のはじまりと登山部の結成は、確認出来たものの年としている。

### 1) 大阪府立清水谷高等女学校

大阪府立清水谷高等女学校（現府立清水谷高等学校）は、明治33（1900）年、大阪府第一高等女学校（のちの府立清水谷高等女学校）が開校。大村忠二郎（明治33（1900）年－大正10（1921）年）が大阪府第一高等女学校校長兼市立大阪第二高等女学校（明治33（1900）年開校）校長となる。明治34（1901）年、大阪府立清水谷高等女学校と改称している<sup>75)</sup>。

『清水谷百年史』には、「草創・基礎確立期の清水谷」としたなかに「修学旅行（遠足）」がみられる<sup>76)</sup>。市立大阪第二高等女学校の時の明治33（1900）年12月、玉手山付近へ遠足運動を行っている。その様子は、

本日午前九時五分湊町駅発車ノ汽車ヲ以て河内国南河内郡玉手山付近へ遠足運動ヲナシ午後五時五分湊町駅ニ帰ル。生徒百十人職員二於テハ大村校長北田渡辺伊東山口ノ各教諭大場助教諭田村近藤西村黒田ノ各雇教員薄校医立花書記及び使丁二人。

関西における旧制女学校による学校登山のはじまり

ということで、「これが本校における一番古い遠足の記録である」とされている。

そして、明治42（1909）年6月のものとされる次の「運動会規程」（『我校ノ教授及訓練』）がみられる。

第一条 本校ニ於テハ生徒ノ運動遊戯ヲ奨励シ、身心ノ鍛錬ヲ図リ、併セテ自然ニ親ミ実地ノ知識ヲ得シメシムルニ運動会ヲ行フ。

第二条 運動会ヲ分ツテ校庭運動会、旅行運動会ノ二種トシ春秋ニ一回ツツ之ヲ行フ。

第三条 校庭運動会ハ本校校庭ニ於テ各種ノ競戯体操等ヲ演シ、主トシテ運動遊戯ヲ奨励シ併セテ身心ノ鍛錬ヲ図ルモノトス。

第四条 旅行運動会ハ通常全生徒同時ニ旅行シ主トシテ身心ノ鍛錬修養ヲ図リ、併セテ歴史地理理科等ニ関シ実地ノ研究ヲナサシムルモノトス。

第五条 旅行運動会ハ凡ソ左ノ地方ニ向フヲ逐年輪番ニ行フモノトス。一、奈良 摩耶山（神戸）二、四条畷 箕面山（三田）三、大仙陵 男山（京都）四、信貴山（多武ノ峯）観心寺（金剛山）五、和歌の浦 宇治（笠置）。

次に、先に取り上げた松本によれば、日本婦人アルカウ会は「日本アルカウ会の会員である男性の顧問と婦人アルカウ会会員の幹事によって運営されている」とされ、顧問の一人である宇野武男（明治43（1910）年1月－大正11（1922）年4月；担当科目歴史<sup>77)</sup>は、清水谷高等女学校の教諭で、「女学生に登山をすすめていた人物」とある。もう一人 H・シェール<sup>(14)</sup>は、「神戸徒歩会にも所属し

---

(14) H・シェール

棚田による『居留外国人による神戸スポーツ草創史』（pp. 295-296）によれば、シェールは KWS において大正7（1918）年、定例遠足大会を先導、大正8（1919）年、遠足会を先導とされている。また、芦屋市役所「広報あしや」（昭和53（1978）年5月5日）に「秘話さんぽ“シェール道”と芦屋のシェールさん」としたものがみられる。明治16（1883）年ドイツ生まれ、36年に日本に来て以来、たいへんな親

山登りの「実践的な面」で活躍」。また、宇野が「長崎高等女学校に転勤した後の清水谷高等女学校で、清友会登山部の世話」もしたとされている。清友会は明治36（1903）年に発足した同校の同窓会<sup>78)</sup>であるが、大正11（1922）年に「登山部が出来ており、卒業後にも山登りをする場ができていた」とされている<sup>79)</sup>。

これらについて、『清水谷百年史』の「大正デモクラシー期の清水谷」としたなか「スポーツ」の見出しがみられ、遠足部について記されている<sup>80)</sup>。大正14（1925）年に成立し、昭和3（1928）年に「農園部に発展的に解消した遠足部」とされ、「校友会の遠足部が成立する前提には清友会の有志登山部があったと思われる。これはアルコウ会のメンバー宇野武男教諭が長崎に転任になり、登山部の事を頼まれていたので、紹介したのが、シェールというドイツ人であった」とある。そして、シェールの登山への考え・思いが掲載されている。一部抜粋する。

我日本に於ては東洋の端西とも請はるる国にも拘らず、登山の趣味の起つたのは漸く茲数年前の事であります。今日に於ては幸ひ登山者の数も非常に殖えて、……女子の方面に於ては一般の登山の趣味を解しないものが多くあるのは実に慨嘆に堪へません。……テニス、バレーボール、或はベースボールまでも近来女子間に行はれるやうになりましたが、此等は皆、運動の範囲が一小区域にのみ限定せられ、その広漠たる山野を跋歩して、大自然の恩恵に浴することの出来る登山と較べて到底その比ではありません。……従つて私達は身体の虚弱者は勿論、健全なる者も是を試みる時はより一層健康となるのみならず、同時に精神をも爽快にし従つて眞に健

---

日家となり、大正9（1920）年日本に帰化し、帰化名を“横江ハイシリッヒ”と名乗り、昭和12（1937）年頃からなくなれる昭和45（1970）年2月までこの芦屋の浜町に住んだ。口ぐせは「日本人は、もっと交通ルールを守り、すばらしい自然を活用すべき」とされ、大正9年以来、若い人たちとともに好んで登った道が、いつしか“シェール道”と呼ばれ、今も“シェール道”は生き続けているとされている。

関西における旧制女学校による学校登山のはじまり

康を喜び且つ一家団欒の基ともなります。(『清友』第三号 pp. 86-87)

そして、大正11(1922)年5月、清友会登山部の「第一回遠足を再度山登山でスタート」とある。大正14(1925)年5月、同校遠足部第一回登山は、「午前七時半 阪神梅田駅集合、……六甲最高峯」とされ、シェールも参加しており、「遠足部登山、有志三百名、……六甲登山ヲ行フ。一同元気旺盛無事」(『教務日誌』大正十四年度)」とある。どちらも六甲山系登山ではじまっている。

同年のその後の活動、大正15(1926)年の活動等取り上げられているが、最後に、「遠足部は、わずか4年間しか存在しなかった校友会における活動であったが、個人の名前がクローズアップされるスポーツの中にあって、有志であって全員が参加しなかったといえ、ユニークな活動であった」とされている。大正から昭和にかけての短期間に存在した遠足部であったが、百年史のなかで多くの頁数を確保していることから、編者は強く記録にとどめたいと考えたと思われる。登山愛好者のシェールが自身の活動だけでなく、女性登山の推奨に関わっていた功績は大きい。六甲山系が外国人登山者、兵庫県、大阪府をつないでいたともいえる。

## 2) 大阪府立夕陽丘高等女学校

大阪府立夕陽丘高等女学校(現府立夕陽丘高等学校)は、明治39(1906)年、大阪府立島之内高等女学校として設立され、初代校長は伊賀駒吉郎(明治39年-大正5(1916)年)である。明治39年に富士山登山を実施した兵庫県明石女子師範学校からの着任<sup>81)</sup>である。明治42(1909)年、府立夕陽丘高等女学校と改称している<sup>82)</sup>。

『日本女性登山史』によれば、明治43(1910)年、同校の教諭となった「竹下栄一、朝輝記太留」が、翌明治44(1911)年から「六甲など近郊の山々に生徒を連れて行き」、大正4(1915)年には「登山部を作る」。さらに二人は大正

2（1913）年と大正3（1914）年に「それぞれ日本山岳会に入会，職場の同僚とも大いに登山をおこなって」とある。朝輝はその後私立樟蔭高等女学校に異動しているが、「昭和に入ってもずっとその学校の生徒や学生を連れて北アルプスを歩いている」とされている<sup>83)</sup>。

竹下の担当科目は理科であり，明治43（1910）年4月から大正6（1917）年3月までの勤務<sup>84)</sup>。朝輝記太留の名前は百年史には確認出来ず，廣兼他によれば学校体育指導者とされ，明治43（1910）年9月から大正7（1918）年3月まで勤務とされている<sup>85)</sup>。

同校の登山について，北田他によれば，大正2（1913）年12月，全校有志149名六甲登山，大正3（1914）年1月，校長登山の教育的価値を説く，大正4（1915）年2月，全校六甲登山，大正6（1917）年，登山部活動隔月登山を実施，大正14（1925）年7月，登山部有志白馬岳登山があげられている<sup>86)</sup>。

『創立80周年記念誌』には，「古きよき夕陽丘を語る（I）－旧校舍時代－あこがれとハイカラの夕陽丘」がみられる。4回生の河野（佐々木）キクさんは，「私ら六甲へ登った時，女学生が六甲へ登ったという新聞記事になりましたね。たしか阪神で出入橋という所から乗って，青木とかいう所でおりて歩いて六甲へ行きました」，「袴はいて登りました。普通の靴はいてね」と語っている<sup>87)</sup>。

### 3) その他学校

ここでは6校取り上げる。大阪府立江戸堀高等女学校（現府立港高等学校）は，明治45（1912）年，開校している。校長は畠田繁太郎（明治44（1911）年5月－大正13（1924）年5月）であるが，大阪府立梅田高等女学校教諭からの着任とされている。大正3（1914）年，府立市岡高等女学校と改称している<sup>88)</sup>。

『Anniversary Minato 1961th』には，写真を添えて「六甲登山 大正2年から始まる」とある<sup>89)</sup>。『創立70周年記念誌』には，市岡高等女学校<<大正～昭和初期>>の「ユニークな行事のしきたり」としたなかで，「冬季登山会」とし

関西における旧制女学校による学校登山のはじまり

て「身体を鍛錬し艱難に堪え、情趣を養うため、紀元節前後に行った。六甲山、金剛山などへ登った」として「六甲登山」とする写真がみられる<sup>90)</sup>。

田中他によれば、「大正になると登山に取り組む学校が始まった」として、市岡高等女学校は、大正2（1913）年2月、「初めて耐寒雪中登山を六甲山で行い話題になった。この行事は、毎年恒例になり、生駒、鞍馬、比叡山と実施場所を変えながら重ねられていく」とされている<sup>91)</sup>。

次に、奈良女子高等師範学校は、明治41（1908）年、開校している。校長は野尻精一（一大正8（1919）年）である<sup>92)</sup>。明治39（1906）年に富士山登山を実施した兵庫県明石女子師範学校藤堂初代校長が明治42（1908）年、同校教授となっている<sup>93)</sup>。

『日本女性登山史』によれば、大正4（1915）年、富士登山を始める、大正13（1924）年、有志が立山、剣岳登山とされている<sup>94)</sup>。

同校については、江刺編著「奈良女子高等師範学校における体育とスポーツ」に詳しくまとめられている<sup>95)</sup>。「校友会運動部の組織の変遷」とした第二期（大正2（1913）年—大正8（1919）年）に、大正2（1913）年、「校友会運動部の歴史の中で、第一の節目」とされ、「校友会規則に初めて細則が設けられ」、運動部は、体操遊戯部、遠足部、テニス部、薙刀部、雑技部とあり、「各部には委員が置かれ」とある。大正4年（1915）年には、運動部が「運動、娯楽遊戯ニ関スル事ヲ掌ル」（規則第5条）と規定され、「単に「健康の増進」を目的とするばかりでなく、「運動を楽しむ」ことも目指すことになりました」とされている。

第三期（大正9（1920）年—大正13（1924）年）では、大正9（1920）年の細則に徒歩部、球技部（バスケットボール部・バレーボール部）、テニス部、行進遊戯部、遠足部及び娯楽部とあり、第四期（大正14（1925）年—昭和15（1940）年）は、「校友会活動の最盛期」とされている。

さらに、「遠足・登山・水泳・修学旅行」としたものがみられる。遠足と修学旅行は、第一期から第五期まで途絶えることなく行われたとある。それは、

「校友会主催のものだけではなく、各学科及び各学級の主催などで随時行われ」とある。遠足は、「日帰りあるいは半日の行程で行われ、校友会主催といわれるものは年に2、3回」とあり、「見学や史跡巡りを目的とするもの」と「体力づくりを目的とするもの」に分けられ、参加学生の割合はかなり高かったとされている。当時、見学目的の遠足は「1日15kmや20kmは平気で」（1919年卒）歩く、体力づくりを目的とする遠足は「信貴山又は生駒山への登山が、例年行われ」ということである。また、本格的な登山は、夏期休暇中に行われ、「主に北アルプスまたは富士山への登山」として詳細が記されている。

次に、大阪府立堺高等女学校（現府立泉陽高等学校）は、明治21（1888）年創設の堺女学校が明治33（1900）年、堺市立堺高等女学校となり、明治45（1912）年、府立堺高等女学校となる。登山実施当時の校長は波多市松（第四代：大正5（1916）年—大正13（1924）年）とある<sup>96</sup>。

登山は、『泉陽高校百年』の「学校行事」としたなかで大正8（1919）年からの記録がみられる<sup>97</sup>。大正8年12月、各学年登山として、1年生信貴山、2年生生駒山、3年金剛山、4年槇尾山、補習科六甲山。大正9（1920）年11月、各学年登山 例年通り開催として、1年生信貴山、2年生犬鳴山、3年金剛山、4年生槇尾山、補習科六甲山。大正10（1921）年11月、全校生徒登山とのみ。大正11（1922）年11月、各学年登山として、1年生駒山、2年生駒山、3年金剛山、4年生槇尾山、補習科六甲山。

大正12（1923）年11月、各学年秋季登山として、1年生駒山、2年生信貴山、3年金剛山、4年二上山、補習科六甲山。この年の登山について、「年中行事の中で秋の最も愉快な登山の日がやって来た。補習科以下各学年それぞれ各方面へ元気に満ちた姿で出発した。清楚な秋の空、百花に優る紅葉、とりどりの自然の風物に接して十二分の爽快と満足感に満ちて夕方無事帰堺」とされている。

大正13（1924）年11月、全校登山として、1年生駒山、2年生信貴山、3年金剛山、4年生槇尾山、補習科六甲山。大正14（1925）年5月、各学年修学旅行と

関西における旧制女学校による学校登山のはじまり

あるが、4年が笠置山。大正15（1926）年5月、春季修学旅行として、4年が笠置山。7月24日、「第5学年有志二十数名 先生方付き添いのもと、富士登山。無事27日帰塚」。11月、全校登山として、1年生駒山、2年二上山、3年金剛山、4年棋尾山とある。このように同校の登山は毎年実施されており、その活動範囲も広い。

次に、大阪府立梅田高等女学校（現府立大手前高等学校）は、明治19（1886）年、大阪府師範学校女学科より独立し大阪府女学校として開校。明治43（1910）年、府立梅田高等女学校と改称、大正12（1923）年、府立大手前高等女学校と改称している。兵庫県明石女子師範学校校長、奈良女子高等師範学校教授であった藤堂忠次郎が大正5（1916）年、校長として着任、大正10（1921）年までとある<sup>98)99)</sup>。

同校の登山が確認出来るのは大正10（1921）年である。『神戸一中遠足部・神戸高校山岳部史』に、大正10（1921）年、梅田高等女学校がアルプスに登っているとされ、大阪の北野中学校関係者が「余程すぐれた先生がいられたに違いない」と述べたとされている<sup>100)</sup>。また、『日本女性登山史』によれば、大正12（1923）年、富士登山とある<sup>101)</sup>。田中他によれば、大正14（1925）年、富士登山とされている<sup>102)</sup>。

次に、滋賀県立彦根高等女学校（現県立彦根翔西館高等学校）は、明治19（1886）年、武節貫治らが女学校創立（淡海女学校の前身）、明治41（1908）年、滋賀県立彦根高等女学校と改称している<sup>103)</sup>。

同校の登山について、榎本によれば、大正3（1914）年、遠足として、7月11日 磯山、1月 鞍掛山まで校外運動、登山として、7月29日、第一回伊吹登山、12名参加、2月 佐和山登山とある。大正7（1918）年、遠足として、4月 磯山、9月 大滝村、10月 金剛輪寺、11月 稲村神社、登山として、7月29日 伊吹登山とされている<sup>104)</sup>。

伊吹山登山について、米原市「米原歴史街道 米原市の歴史・文化財を歩く126 戦前戦中の伊吹山学校登山－戦争に利用された伊吹山－」には、彦根高等

女学校は、大正3（1914）年7月29日・30日、「第1回伊吹登山を実施」とある。「校長以下職員5人は生徒12人を引率して山麓の春照に一泊して夜間登山をおこないました。以後、大正7年、昭和2年、10年から18年まで、終業式終了後、第5学年百数十名が恒例の夜間登山をおこないました」とされている<sup>105)</sup>。

次に、岐阜県の私立富田女学校（現富田高等学校）は、明治39（1906）年、富田女学校開校、大正11（1922）年、富田高等女学校開校とある<sup>106)</sup>。『日本女性登山史』によれば、大正7（1918）年より伊吹山登山とされている<sup>107)</sup>。

大正期、六甲山等において冬期登山が行われていたことが印象に残る。

#### IV. まとめ

明治・大正期、関西における女子生徒による学校登山のはじまりにおいて、登山はどのような目的で実施したのか。その背景の一つとして神戸市からの六甲山系登山について確認した。明治28（1895）年、A・H・グループが六甲山に別荘を建てたことがきっかけとなって、六甲山上が登山等の活動の場となって広がっていったこと。ゴルフ狂・山狂とされたH・E・ドントや鉄脚の人と呼ばれたJ・P・ワーレンといった人物がいたこと。こうした居留外国人の自宅が六甲山系の麓にあったこと等を確認してきたが、明治30（1897）年、兵庫県神戸尋常中学校が六甲山系で登山を実施していた。この学校も近くにあった。主な登山の場は布引、再度山、摩耶山等であった。

明治38（1905）年、兵庫県立高等女学校は、遠足として六甲山系の鳥原水源池へ行っていた。女子教育の目的を「優秀善美なる日本国民の養成」と「心育」とされ、この目的達成のための要目の一つに「体育」があげられ、同年7月、校訓を制定しているが、「第七 進みては適當の運動を力め退きては衛生の法則に従ひ以て体力鍛錬の工夫を為すべし」がみられた。

明治39（1906）年、兵庫県明石女子師範学校は富士山登山を実施していた。はじめての女性教育者を育成するにあたり「教育者としてその重任に堪ふる人物を養成せん」とした。そして、教育方針の一つに「活動を奨励す」があった。

関西における旧制女学校による学校登山のはじまり

教育の方法のなかには「自治的訓練」と「旅行登山の奨励」があげられていたが、旅行は「独立心と勇気とを養う最良の手段」とされた。富士山登山は藤堂校長も参加したが、旅行実施への強い思いがそうさせたと思われる。その他3校においても、主に大正期、再度山、六甲山、摩耶山等において登山が実施されていた。

大阪府の高等女学校においては、主に明治末期から大正期にかけて、地理的なことから兵庫県の六甲山や奈良県の信貴山など多方面での登山がみられた。

大阪府立清水谷高等女学校においては、明治42（1909）年に「運動会規程」がみられ、「第四条 旅行運動会ハ通常全生徒同時ニ旅行シ主トシテ身心ノ鍛錬修養ヲ図リ、併セテ歴史地理理科等ニ関シ実地ノ研究ヲナサシムルモトス」とされた。大阪府立清水谷高等女学校・大阪府立夕陽丘高等女学校においては、同時期、自ら登山組織に所属しながら女子生徒の登山を行っていた教諭がいた。

奈良女子高等師範学校は大正4（1915）年の富士山登山だけでなく、時期の詳細は確認出来なかったが体力づくりを目的とした遠足として地元の信貴山や生駒山登山を実施していた、滋賀県立彦根高等女学校・岐阜県の富田女学校は、大正期に伊吹山登山を実施していた。

以上であるが、女子生徒による学校登山のはじまりにおいて教育・登山の場における先駆者の存在と強さが伝わって来た。登山に関する詳細を記録していた学校においては、女子生徒育成のために必要な運動の一つとして遠足としての登山があった。坂倉らが記している「心身を鍛える」だけでなく、堺高等女学校の記録にある「自然の風物に接して十二分の爽快と満足感に満ちて」とする学校もあった、そして、当初から学外での活動の教育効果が考えられていたということである。

長い間スポーツを推進する仕事をさせていただいたなかで思うことは、人は運動能力も体力も一人ひとり違う。登山家田部井淳子さんが「小学校四年生の夏休み、担任の先生に連れられて栃木県的那須に山登りに行ったこと・・・体が弱く全く運動ができない私に「山登りはゆっくりでいいんだよ」と声を掛け

てくださった」（『到知』2016年7月号「76歳 現役の女性登山家」）とされているように、登山は自分のペースで一步一步登りながら、頂上を目指し達成感を味わう、その道中や頂上からの景色のすばらしさを感じる等がある。今日、山に関すること、地図、交通手段、登山口、登山ルート、登山所要時間、装備品、歩き方等必要な情報を何でも手に入れることが出来る。兵庫県明石女子師範学校の藤堂校長は、旅行は「独立心と勇気とを養う最良の手段」とされているが、生涯をとおして主体的に旅行や運動に取り組むことが生活・人生を豊かにするという実践者が一人でも増えること、これら自然の場所が守られていくことを願うものである。

#### 引用文献

- 1) 兵庫県立神戸高等学校 110周年記念誌小委員会編（2006）神戸高校110年誌。兵庫県立神戸高等学校，pp. 12-13.
- 2) 船曳俊也，村上栄一，末石経，立花三郎，富田信三，池田辰彦，長岡康規，加藤道夫，酒井多恵子編（1986）90年のあゆみ。兵庫県立神戸高等学校，p. 146.
- 3) 井村仁（2006）わが国における野外教育の源流を探る。野外教育研究10巻1号，p. 90.
- 4) 坂倉登喜子，梅野淑子（1992）日本女性登山史。株式会社大月書店，pp. 3-6，p. 101，p. 103.
- 5) 同上。p. 102，女性登山史年表3 学校登山 p. 3.
- 6) 公益社団法人日本山岳会「日本山岳会100年のあゆみ」。
- 7) 田辺真人，谷口義子（2018）神戸の歴史ノート。神戸新聞総合出版センター，pp. 44-46.
- 8) 神戸市：神戸市域の変遷。
- 9) 神戸市：六甲山。2024年12月1日確認。
- 10) 神戸市：「神戸」と「登山」の関係。2024年12月1日確認。
- 11) 神戸市：六甲山の歴史と現状。pp. 5-14.
- 12) 落合重信（1970）神戸背山登山史，神戸市レクリエーション協会 神戸市民山の会編 神戸脊山登山史。pp. 5-7.
- 13) 棚田真輔（1976）居留外国人による 神戸スポーツ草創史。道和書院，p. 19.
- 14) 前掲書11）。p. 12.
- 15) 忽那敬三（2015）ガウランドと登山記録-記録から足跡をたどる-。明治大学 MUSEUM EYES 第64号，pp. 8-9.
- 16) 棚田真輔編著，松村好浩監訳（1988）神戸背山登山の思い出。交友プランニング

関西における旧制女学校による学校登山のはじまり

- センター, p. 42.
- 17) 中村三佳 (2023) 六甲山を世界に紹介したジェントルマン H・E・ドント物語, 神戸外国人居留地研究会編 近代神戸の群像 居留地の街から. 神戸新聞総合出版センター, pp. 73-75, p. 122.
- 18) 前掲書11). p. 12.
- 19) 高木應光 (2006) 神戸 スポーツはじめ物語. 神戸新聞総合出版センター, pp. 58-59, pp. 66-67.
- 20) 前掲書13). pp. 181-183.
- 21) 目賀田嘉夫, 土佐洋一編 (1997) 神戸一中遠足部・神戸高校山岳部史. p. 14.
- 22) 一般社団法人神戸ゴルフ倶楽部ホームページ 神戸ゴルフ倶楽部 “100年の歩み”.
- 23) 前掲書13). pp. 272-273, p. 185.
- 24) 前掲書1). pp. 2-6.
- 25) 前掲書21). pp. 8-10, p. 82, pp. 84-85.
- 26) 善助茶屋跡を保存する会 (1978) 毎日登山発祥の地 善助茶屋. 神戸登山研修所, pp. 1-5, p. 16.
- 27) 神戸市立王子動物園「重要文化財 旧ハンター住宅 E・H・ハンター氏」.
- 28) 前掲書13). p. 273.
- 29) 棚田真輔, 表孟宏, 神吉賢一 (1984) プレイランド六甲山史. 株式会社出版科学総合研究所, p. 340.
- 30) 前掲書17). p. 81.
- 31) 前掲書29). pp. 137-138.
- 32) 前掲書12). p. 5.
- 33) 前掲書29). p. 141.
- 34) 前掲書17). p. 128.
- 35) 前掲書13). pp. 18-19.
- 36) 前掲書26). p. 16.
- 37) 前掲書19). pp. 183-184.
- 38) 前掲書13). pp. 294-296.
- 39) 藤坂由美子 (2015) 東京師範学校卒業生渡辺敏の長野県における体育活動. 体育史研究第32号, p. 53.
- 40) 長野県長野西高等学校ホームページ 沿革.
- 41) 前掲書3). p. 89.
- 42) 本の万華鏡 第18回 登山事始め-近代日本の山と人 第3章 山岳会の設立と登山の普及 学校における登山.
- 43) 前掲書39). p. 52.
- 44) 北海道札幌北高等学校ホームページ 北高の歴史.
- 45) 前掲書4). p. 102.
- 46) 札幌市: 藻岩山の歴史.

- 47) 前掲書 1). pp. 12-16.
- 48) 前掲書 2). p. 146.
- 49) 兵庫県立第一神戸高等女学校 校友会 欽松会編（1932）創立三十周年記念誌. pp. 75-79,
- 50) 赤坂美月, 永木耕介, 千駄忠至（2006）旧制女学校における「体育」の定着過程に関する研究－兵庫県立第一神戸高等女学校の事例－. 兵庫教育大学実技教育研究第20号, p. 80.
- 51) 前掲書 2). pp. 148-149.
- 52) 神戸高校100年史編集委員会（1997）神戸高校百年史－同窓会編. p. 94（神高同窓会誌3号 昭和37年5月）, p. 103（神高同窓会誌17号 昭和51年7月）, p. 110（神高同窓会誌21号 昭和55年7月）.
- 53) 前掲書 2). pp. 154-161.
- 54) 前掲書49). p. 390. pp. 250-253.
- 55) 兵庫県明石女子師範学校編（1933）回顧三十拾年. 兵庫県明石女子師範学校, pp. 3-4, 26-36, pp. 427-436.
- 56) 神戸大学附属幼稚園ホームページ.
- 57) 大西巧（2021）明石に女子師範学校がありました. 神戸新聞総合出版センター, pp. 6-13.
- 58) 前掲書55). pp. 4-6, p. 16, pp. 429-436.
- 59) 前掲書55). p. 4.
- 60) 前掲書55). pp. 7-17, pp. 31-32.
- 61) 前掲書55). pp. 38-43, p. 24, pp. 42-43.
- 62) 前掲書55). p. 429.
- 63) 信州大学中央図書館 書物で綴く登山の歴史3－日本近代登山の始まり－ 3. 登山と教育.
- 64) 前掲書 4). p. 111.
- 65) 前掲書55). p. 49, p. 364, pp. 381-384.
- 66) 六愛会「六愛会モニュメントの由来」.
- 67)（1981）70周年記念誌. 神戸市立赤塚山高等学校. p. 11, pp. 157-158.
- 68) 前掲書29). pp. 333-337.
- 69) 神戸女学院中学部・高等学部ホームページ 学院沿革.
- 70) 神港学園高等学校ホームページ 沿革.
- 71) 谷祝子, 井上紀子（2005）神戸女学院における体育の歴史～大正時代～. 研究所委員会編 神戸女学院大学論集51(3), p. 154, p. 156, p. 162.
- 72) 創立80周年記念事業実行委員会 80年誌編集委員会 尼崎市立尼崎高等学校総務部編（1993）校史Ⅱ 80周年記念誌. p. 16.
- 73) 前掲書 4). 女性登山史年表3 学校登山 p. 3.
- 74) 松本佳子（2009）大正・昭和初期における日本婦人アルカウ会の活動－趣味とし

## 関西における旧制女学校による学校登山のはじまり

- での山登り一. p. 88, pp. 91-93.
- 75) 大阪府立清水谷高等学校100周年記念事業実行委員会記念誌委員会編 (2001) 清水谷百年史. 大阪府立清水谷高等学校100周年記念事業実行委員会, p. 5.
- 76) 同上. pp. 40-41.
- 77) (1961) 清水谷六十年史. 大阪府立清水谷高等学校内六十周年記念事業実行委員会, p. 250.
- 78) 清水谷高等学校 清友会ホームページ 沿革.
- 79) 前掲書74). p. 92, p. 90.
- 80) 前掲書75). pp. 166-172.
- 81) 学校法人 樟蔭学園ホームページ 樟蔭学園の歴史「創立者と初代校長」.
- 82) 記念誌編集委員会編 (2006) 夕陽丘百年. 大阪府立夕陽丘高等学校 創立百周年記念会 略年譜,
- 83) 前掲書4). p. 110.
- 84) 前掲書82). p. 820.
- 85) 廣兼志保, 木原成一郎 (2012) 朝輝記太留 (1878-1938) の米国体育視察と行進遊戯教材の普及に関する研究. スポーツ教育学研究32巻1号, pp. 22.
- 86) 北田和美, 井谷恵子 (2003) 大阪府立夕陽丘高等女学校の女子スポーツ奨励の理念と活動状況, 日本の女性スポーツ黎明期における女子スポーツ奨励の理念と活動状況に関する研究-大阪府・愛知県高等女学校の事例を中心に-. 夕陽丘高等女学校体育・スポーツ関連行事年表 (1906-1940).
- 87) 創立80周年記念誌編集委員会編 (1986) 大阪府立夕陽丘高等学校 創立80周年記念誌. 創立80周年記念事業実行委員会, pp. 44-46.
- 88) 創立70周年記念誌編集委員会編 (1981) 創立70周年記念誌. 大阪府立港高等学校沿革の概要.
- 89) 創立五十周年記念誌編集委員会 (1961) Anniversary Minato 1961th. 大阪府立港高等学校.
- 90) 前掲書88). p. 17.
- 91) 田中讓, 北田和美, 新野守, 大松敬子 (2015) 大阪へのスポーツ移入とその発展について (第2報) -戦前の高等女学校に焦点を当て-. 大阪産業大学人間環境論集14, p. 112.
- 92) 奈良女子大学 Ninety Years の歩み.
- 93) 前掲書55). p. 4.
- 94) 前掲書4). 女性登山史年表3 学校登山 pp. 3-4.
- 95) 江刺正吾編著 (2003) 奈良女子高等師範学校における体育とスポーツ (平成15年度奈良女子大学学術研究交流センター研究成果報告書). pp. 51-65.
- 96) 大阪府立泉陽高等学校 記念誌編集委員会編著 (2001) 泉陽高校百年. 大阪府立泉陽高等学校 創立百周年記念事業実行委員会, p. 115, p. 125.
- 97) 同上. pp. 127-157.

- 98) 百三十周年記念誌編纂委員会編（2016）創立百三十周年記念誌. 大阪府立大手前高等学校 沿革.
- 99) 大阪府立大手前高等学校ホームページ 沿革.
- 100) 前掲書21). p. 29.
- 101) 前掲書4). 女性登山史年表3 学校登山 p. 4.
- 102) 前掲書91). p. 113.
- 103) 滋賀県立彦根翔西館高等学校ホームページ 沿革.
- 104) 榎本雅之（2022）彦根高等女学校における体育・スポーツの変遷. 彦根論叢第430号, p. 45.
- 105) 米原市 米原歴史街道 米原市の歴史・文化財を歩く126「戦前戦中の伊吹山学校 登山－戦争に利用された伊吹山－」.
- 106) 学校法人富田学園公式サイト 学園のあゆみ.
- 107) 前掲書4). p. 106.